



# 「立花宗茂と闇千代」物語

「こんな大河ドラマが見てみたい」 〈第4話〉

■文：小山田桐子／挿：D&N ■イラスト：大久保ヤマト  
※この物語は史実を基に、一部フィクションで作成されています。  
【問】市観光課観光推進係（☎77・85603）

## 宗茂と闇千代、幼い日の出会い、そして二人は戦国最強の夫婦へ④

故郷への攻撃を知り、道雪の元にある捕らわれの姫が自害道雪が説く、手を汚してもでも負き通す忠義

宗茂と闇千代が結婚したその年、秋月種実が大友領への侵攻を開始する。そのタイミングで、宗像の家臣が立花の兵糧を強奪。激怒した道雪は、宗像の謝罪を受け入れず、攻撃。そのことを知った色姫は苦悩の末、自害してしまう。

涙ながらに父を攻める闇千代。宗茂もまた疑問を呈するが、道雪は当然のことだと堂々と言い放つ。主君を守るという目的が果たせるならば、どんなことでもする。君主を輝かせるために、泥にまみれ、手を汚すのが自分の役目だと。それが自分の義であると。道雪は宗茂に一冊の冊子を見せる。そこには家臣や

敵の情報や弱みがぎっしりと書き連ねてあった。道雪は薦野増時に命じて収集した情報をもとに、時に脅し、時に騙し、時にひそかに命を奪い、味方の離反を防ぎ、敵を分断してきたのだ。

きれいなことでは君主も家も守れないと道雪は諭す。しかし、宗茂は納得がいかない。色姫の死を知った宗像は反発を強めるはずだ。結局、長い目で見れば、敵を増やすだけではないのか。疑問を投げかける宗茂を、道雪は「お前はまだ何も知らないのだ」と一蹴する。しかし、宗茂が去った後、道雪は色姫の死を思い、沈鬱な表情を浮かべるのだった。

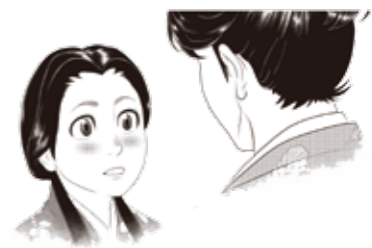
鬼道雪の留守を狙い敵が襲来！宗茂、闇千代の力を借り、少数精鋭で撃破  
大友家の勢力をなんとか維持しようと各地で戦い続

ける道雪と紹運。城の留守を任された宗茂は、道雪のいない隙をつこうと考えた秋月種実に攻め込まれる。8000ほどの秋月の軍。城に残っている兵はその半分にも満たない。しかし、敵は宗茂を若輩者と侮っているはず。そこにチャンスがあると宗茂は主張。打つてやることを提案する。しかし、宗茂に否定的な家臣たちは、籠城するべきだと頑なに反対するばかり。

宗茂は家臣たちに城を守りたいという気持ちは同じはずだと訴える。勝機を逃せば勝てるものも勝てない。一緒に戦ってほしい、と。その真摯な呼びかけに、銃を手にした闇千代が応える。彼女と共に鉄砲の腕を磨いてきた侍女たちもまた立ち上がる。その勢いに押される形で、男たちの一部も武

器を取った。わずか500ほどの兵を率いて、夜、こっそりと城を出た宗茂。一気に攻め込むと、すっかり眠り込んでいた秋月の軍は慌てて逃げ出す。その退路に伏せていた闇千代らが一斉に砲撃すると、数でははるかに勝っているはずの秋月の軍はたまたま逃げ帰った。

城を守った宗茂と闇千代は笑みを交わす。城を守る者同士として、二人には強い信頼が芽生え始めていた。



闇千代と宗茂

### 「応援する会」会員募集

「立花宗茂と闇千代」を主人公とした大河ドラマ招致活動の輪を広げていくため、『立花宗茂と闇千代』NHK大河ドラマ招致活動を応援する会』を立ち上げ、賛同頂ける方々への情報発信などを行っています。ぜひ、応援する会に参加し、一緒に招致活動を盛り上げていきませんか。

■参加資格 「立花宗茂と闇千代」の大河ドラマを見たいという人（反社会勢力に属している方の入会はお断りします）

■入会方法 大河ドラマ招致委員会公式サイトより入会できます。入会料・年会費は無料

問い合わせは、NHK大河ドラマ招致委員会事務局（柳川商工会議所内☎73・7000、電子メール：ouensurukai@muneshige-taiga.jp）まで。

### 柳川にこの人あり

vol.82



骨髄ドナーとして骨髄を提供

石橋 こそえさん

磯島・41歳

### 誰かの明日につなげるために

市は、骨髄などの提供を推進するために、平成28年度から提供した市民に助成を行っています。石橋さんは今年3月に骨髄を提供し、市の助成を利用した初めての人となりました。

石橋さんが20歳の頃、50歳になった母が白血病を発症。医師から、骨髄移植を行わなかったら数年の命と告げられ移植を行い、その後10年以上存命されます。母の治療のこともあって、石橋さんは献血した折りに骨髄ドナーに登録。しかし骨髄ドナーに登録しても、ドナーと患者の間には“相性”が必要なため、ドナー候補者

になったことの通知がすぐくるとは限りませんでした。

石橋さんはドナー登録後、20年経った昨年12月、日本骨髄バンクからドナー候補者になったことの通知がきました。ちょうど母の七回忌の準備をしているときで、「何かの巡り合わせかもしれないね」と石橋さんの父は話したそうです。石橋さんは家族や職場の理解を得て骨髄を提供することを決意します。

骨髄の採取前後には、コーディネーターからの説明や健康診断、そして採取のためには入院も必要ですが、医師や看護師のしっかりしたサポー

トもあり、石橋さんは不安はなかったそうです。

「骨髄を必要としている誰かの明日につなげるために、自分にできることが骨髄の提供。医師や看護師など、患者さんの命をつなぐリレーに関わって良かったと思っています」と石橋さん。

骨髄提供を受けた患者の情報は知ることはできませんが、名前を伏せて1、2通の手紙のやりとりができます。石橋さんは「暗闇の中に一筋の光が差し込んだようです」と書かれた、提供を受けた人からのお礼の手紙を嬉しそうに見せてくれました。

※骨髄などの提供者への市の助成内容については、保健ガイド21ページに掲載しています。

### 川柳

今月の入選作品・課題 「時計」「雑詠」

#### 明日あるを信じ時計のネジを巻き

坂田信幸（鷹ノ尾）

考えてみれば誰ひとり明日のことは分からぬ。それでも人は明日あることを信じ、畑に種をまき山に木を植える。もし明日という日が永遠に続くなら日々の感動は薄れ今日の朝も新鮮さを失い味気ないものとなるだろう。今日と明日を重ねてほうれん草は伸び、時計はその時を刻む。流青

- |                 |       |        |
|-----------------|-------|--------|
| 古時計はばとどちらが生き残る  | 目野喜代子 | (木元)   |
| コチコチと柱時計は祖父の顔   | 荒巻ミネノ | (南浜武)  |
| とぎれなく営みの世の時紡ぐ   | 山口房子  | (白鳥)   |
| のんびりと風に呼応の花時計   | 吉開綾子  | (筑紫町)  |
| 果てしない刻む秒針今を生き   | 梅崎三和子 | (田脇)   |
| ねぼすけに進めた時間戻される  | 井口まり子 | (間)    |
| 一歩ずつ歩むだけよと砂時計   | 津留和巳  | (六合)   |
| 電話機の横に立つてる砂時計   | 佐田輝喜  | (明野)   |
| 古時計歴史を刻む音で鳴る    | 佐藤良子  | (蒲生)   |
| 腕時計ローンを終了紛失す    | 大橋ミヨ子 | (六合)   |
| 手にスマホ眠ったままの腕時計  | 古賀麗子  | (吉原)   |
| 夏だから少し時間の無駄遣い   | 古賀幸子  | (横山町)  |
| 宿題は夏の終わりに砂時計    | 坂井幸利  | (中島)   |
| いつからか私の記憶砂時計    | 松藤栄子  | (中島)   |
| 口喧嘩今日の時計が進まない   | 浦 哲之  | (栄)    |
| 砂時計心の迷い沈ませる     | 山田美代子 | (下宮永町) |
| お鈴鳴る母の鼓動に起こされて  | 阿津坂典代 | (矢留本町) |
| そろそろ飯だとじいじの腹時計  | 甲木幸栄  | (蟹町)   |
| ポリープが知らせてくれた不摂生 | 松本利香  | (古賀)   |

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。10月の課題は「石」雑詠。入選作品は11月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品（※1人3句以内）に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報係（☎77・8425、FAX 74・5520）へ、10月15日（必着）までにお送りください。

人の世のからくり石は水に浮く

流青